5月28日決算説明会 質疑応答(要約)

- Q1. 自動車保険の損害率が低下しており、保険金支払額の減少が下期により大きく出ているが、何か特徴的な要因はあるのか。
 - ◆ 2008 年度は収益確保のために損害率の改善に注力してきた。具体的には、損害率の高い代理店に対して、契約ポートフォリオを検証・分析することにより適正引受を指導している。同様に、個別契約(契約者)についても、安全運転診断等を活用するなど、事故を発生させないための教育など事故予防措置も講じている。
 - ◆ また、エコ安全ドライブコンテストを 10 月から半年間実施し、フリート契約者 6,000 社、23 万台の参加をいただいた。結果として、燃費が 5%弱の改善、事故 発生率も 20%程度減少するなど大きな成果を上げることができた。
 - ◆ こうした取り組みによる成果が着実に、また下期以降により出現したことから、 最終的に事故発生件数は全体で対前年比マイナス 3.3%となった。
- Q2. 2008 年度の事業費は大幅に減少した一方、2009 年度計画では増加を見込んでいるようだが、その要因について実額で説明してほしい。
 - ◆ 人件費は、2008 年度の 832 億円に対し、33 億円の増加を見込んでいる。2008 年度のD C 移行に伴う一時的な減少要因の反動増が主因である。具体的には、退職給付信託からの返還益 10 億円である。このほかに、退職給付信託拠出株式の時価下落に伴う数理計算上の差異 5 億円、厚生年金保険料の料率引き上げによる影響、代理店研修生の採用強化による給与負担増などを見込んでいる。
 - ◆ 物件費は、2008年度の687億円に対し、47億円の増加を見込んでいる。保険法対応等によるシステム改定・帳票改定などが主因で、精緻な積み上げではなく概算であるが、およそ20億円程度の費用負担を見込んでいる。このほか、日本橋ビルの減価償却費、移転費用などを織り込んでいる。

以上